

文化に関する県民アンケート調査結果の概要

令和4年8月実施 調査対象 1,200 回収数 467 回収率 38.7%

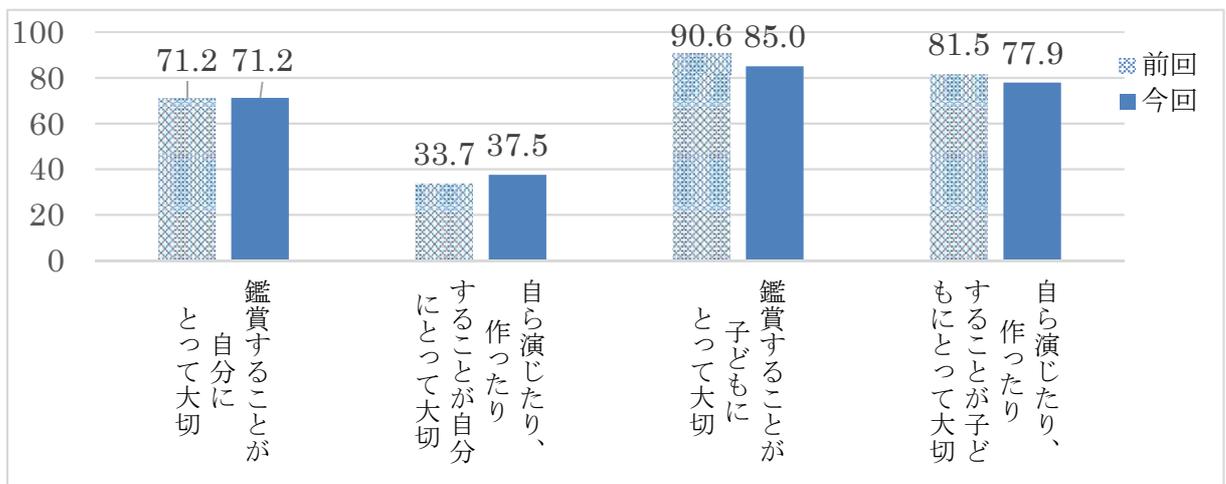
※前回＝H28.5 調査、

全国＝文化に関する世論調査 (R2, R3)、食育に関する意識調査 (R3)

1 文化に関する意識

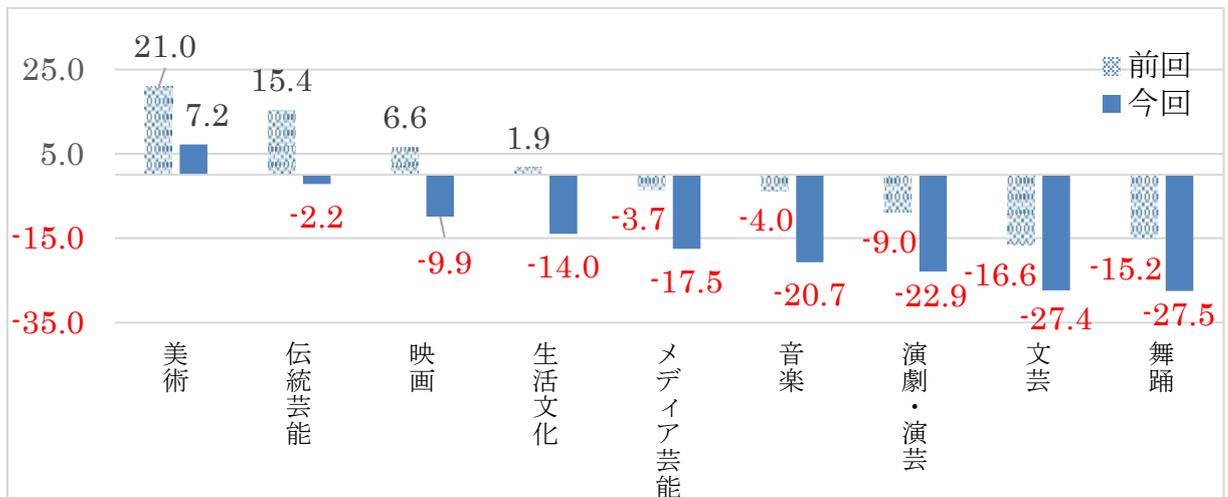
①文化活動が自分や子どもにとって大切か (問9)

- ・ 自分にとって大切だと思う人は、「鑑賞すること」は前回調査と同値、「自ら演じたり、作ったりすること」は前回調査から上昇。
- ・ 子どもにとって大切だと思う人は、「鑑賞すること」、「自ら演じたり、作ったりすること」とともに、前回調査から低下。



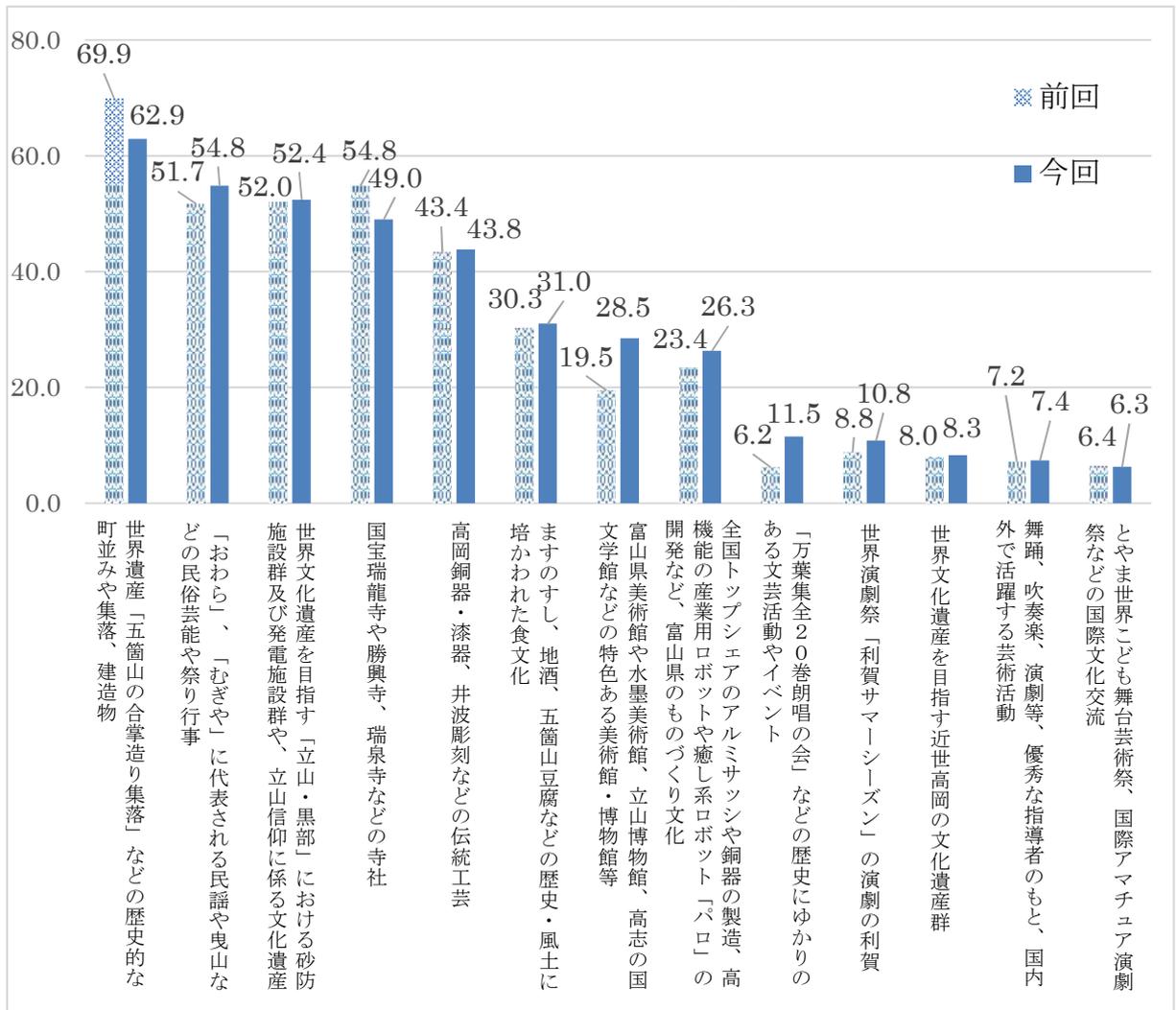
②本県の文化活動は盛んか (問10) (※「盛んであると思う」－「盛んでないと思う」の差)

- ・ 盛んであると思う人の方が多いのは「美術」のみ。
- ・ 前回調査と比較すると、すべての分野でポイント数が低下した。



③ (1) 全国的、国際的に誇れる文化、文化活動、文化財は何か (問 1 1 (1))

- ・ 「世界遺産『五箇山の合掌造り集落』などの歴史的な町並みや集落、建造物」が最も多く、次いで『『おわら』、『むぎや』に代表される民謡や曳山などの民俗芸能や祭り行事』、「世界文化遺産を目指す『立山・黒部』における砂防施設群及び発電施設群や、立山信仰に係る文化遺産』、「国宝瑞龍寺や勝興寺、瑞泉寺などの寺社」となった。
- ・ 前回調査と比較すると、『『おわら』、『むぎや』に代表される民謡や曳山などの民俗芸能や祭り行事』、「世界文化遺産を目指す『立山・黒部』における砂防施設群及び発電施設群や、立山信仰に係る文化遺産』、「高岡銅器・漆器、井波彫刻などの伝統工芸』、「ますのすし、地酒、五箇山豆腐などの歴史・風土に培かれた食文化」などが上昇。
- ・ 一方で「世界遺産『五箇山の合掌造り集落』などの歴史的な町並みや集落、建造物』、「国宝瑞龍寺や勝興寺、瑞泉寺などの寺社』、「とやま世界こども舞台芸術祭、国際アマチュア演劇祭などの国際文化交流」が低下



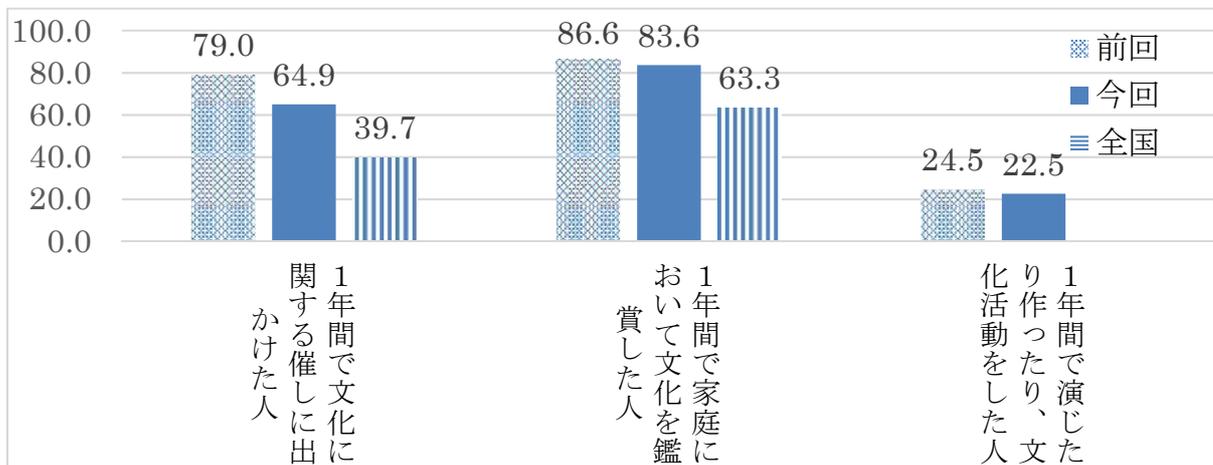
③文化財等の魅力や力が県や市町村の取組みに活かされていると感じるか (問 1 1 (2))

よく感じる	ときどき感じる	あまり感じない	全く感じない
4.9%	36.4%	51.6%	7.0

<感じる場面>全 68 件の記述のうち、テレビなどでの報道 (32 件) が最多

2 文化の鑑賞及び創作活動の状況（問1、問5、問7）

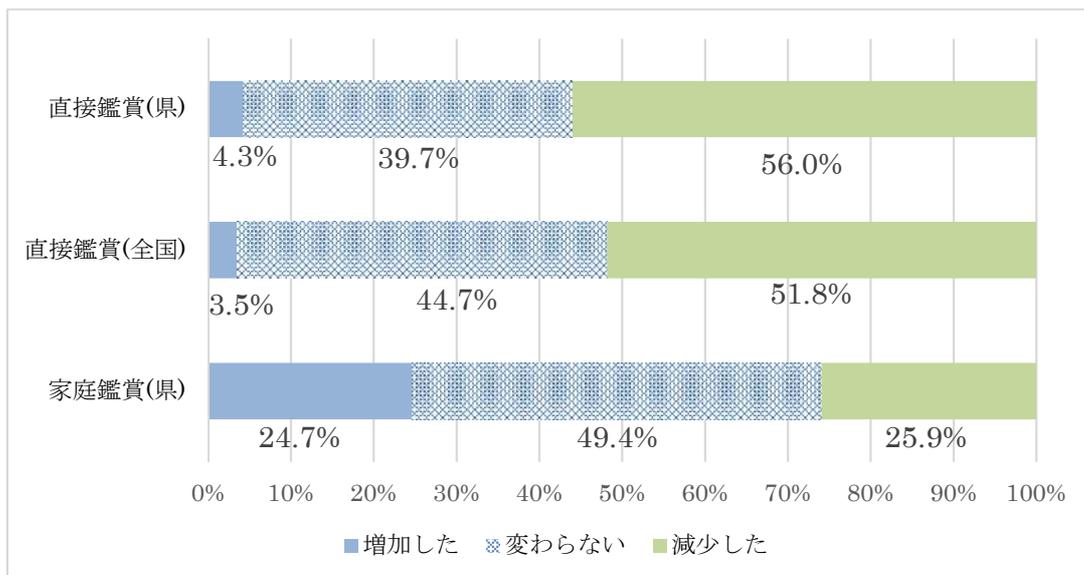
- ・ 前回調査と比較すると、「催しに出かけた人」の割合は低下したが、「家庭において文化を鑑賞した人」「演じたり、作ったり、文化活動をした人」はほぼ同じ。
- ・ 全国調査と比較すると、「催しに出かけた人」、「家庭において文化を鑑賞した人」の割合は高い。



※ 「1年間で演じたり文化活動をした人」に関する国調査は無い

3 新型コロナの影響による鑑賞頻度の変化

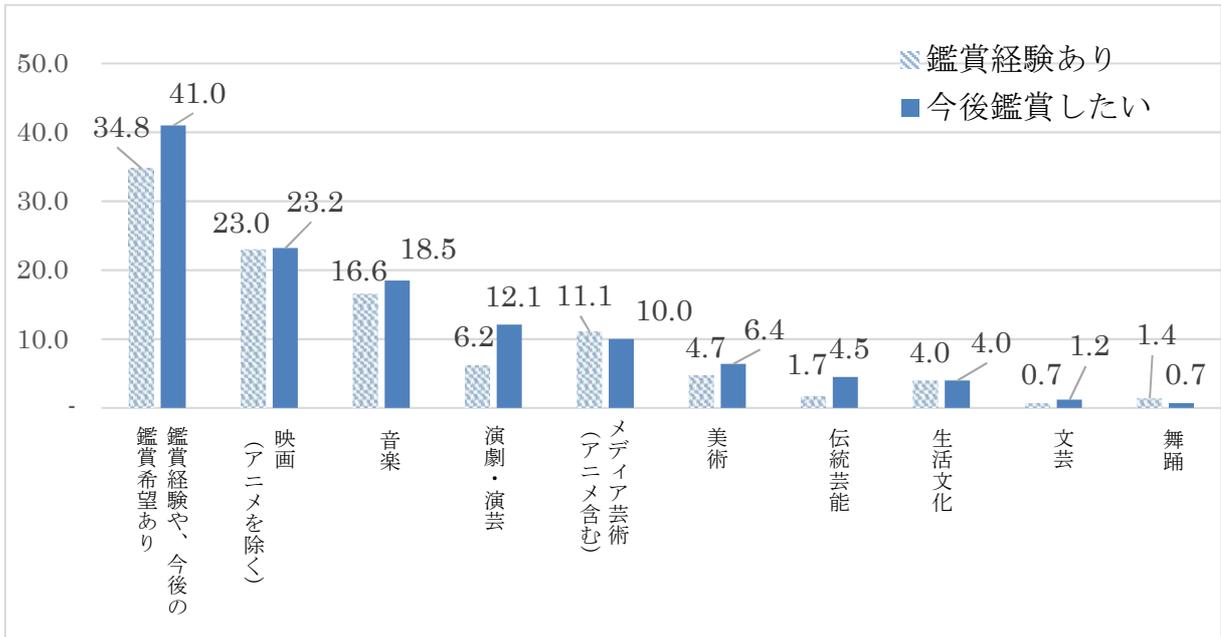
- ・ 現地での直接鑑賞の頻度の変化については、約5割が減少したと回答しており、県と国ではほぼ同様の傾向である。
- ・ 家庭での鑑賞頻度（県）は、現地での直接鑑賞（県）に比べて増加した人の割合は高く、減少した人の割合が低い。



※ 家庭での鑑賞頻度の変化に関する国調査は無い

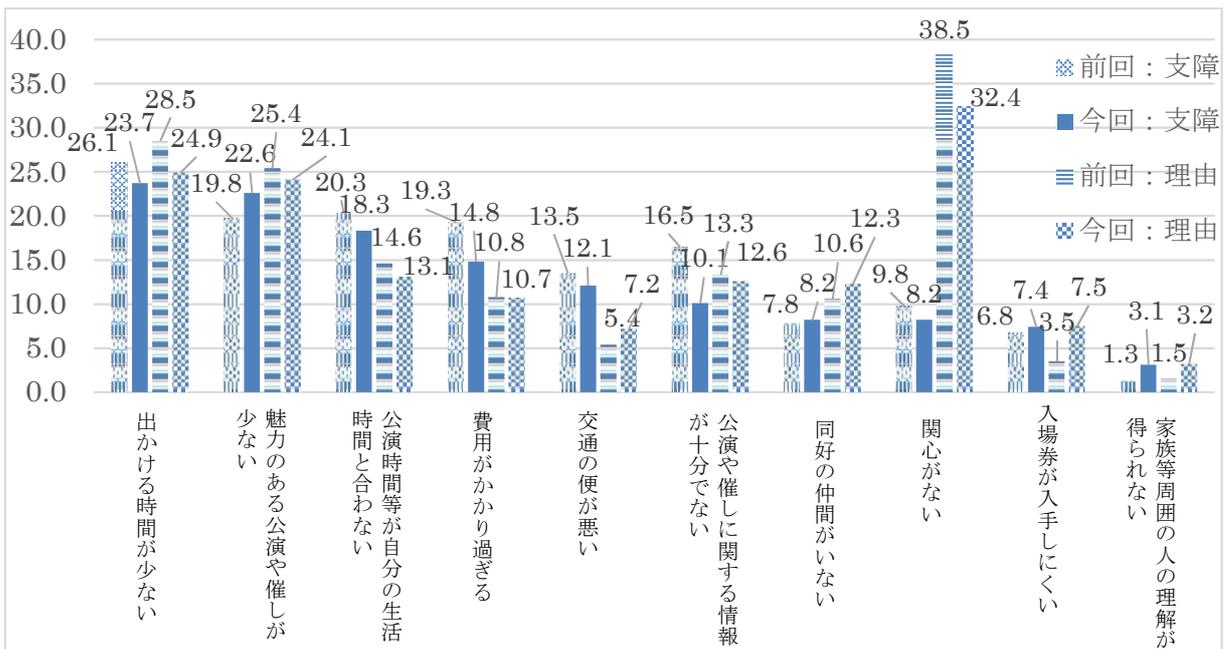
4 有料でのオンライン鑑賞の状況（問5（3））

- ・有料でのオンライン鑑賞経験がある人は3割強にのぼる。
- ・鑑賞した分野は、高い順から映画（アニメ除く）、音楽、演劇・演芸と続く。



5 鑑賞に出かけるうえで支障となっていること、鑑賞に出かけない理由（問2）

- ・出かけるうえでの支障は、「出かける時間が少ない」が最も多く、次いで「魅力のある公演や催しが少ない」「公演時間等が自分の生活時間と合わない」「費用がかかり過ぎる」と続く。
- ・出かけない理由は、「関心がない」が最も多く、次いで「出かける時間が少ない」、「魅力のある公演や催しが少ない」となった。
- ・前回調査と比較すると、出かけるうえでの支障では「魅力ある公演や催しが少ない」が、出かけない理由では「同好の仲間がいない」が上昇。

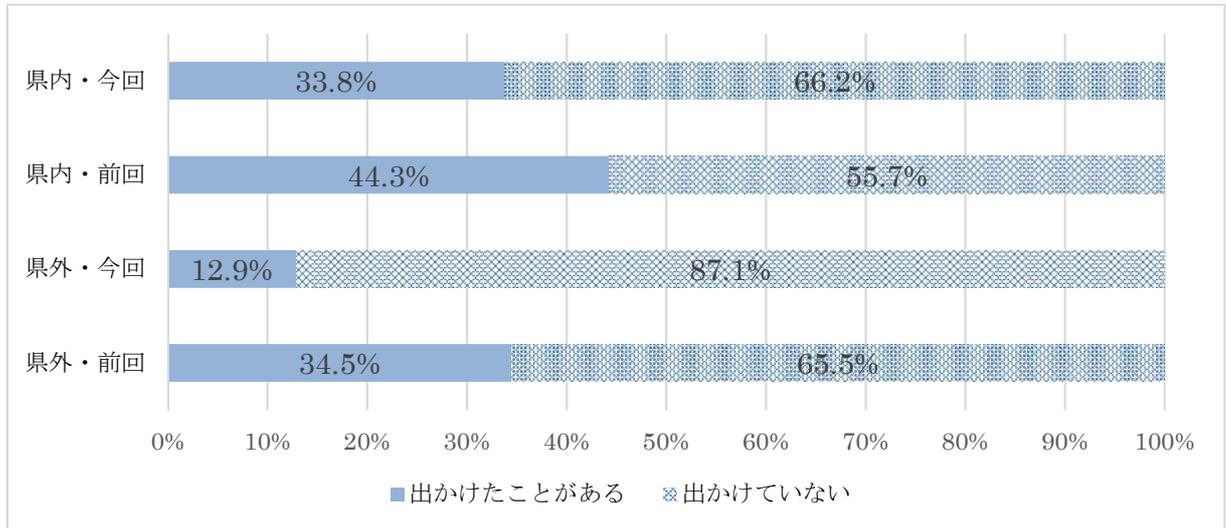


※ 「出かけるうえでの支障」は出かけたことがある人の回答、「出かけない理由」は一度も出かけていない人の回答。

6 美術館・博物館等での鑑賞

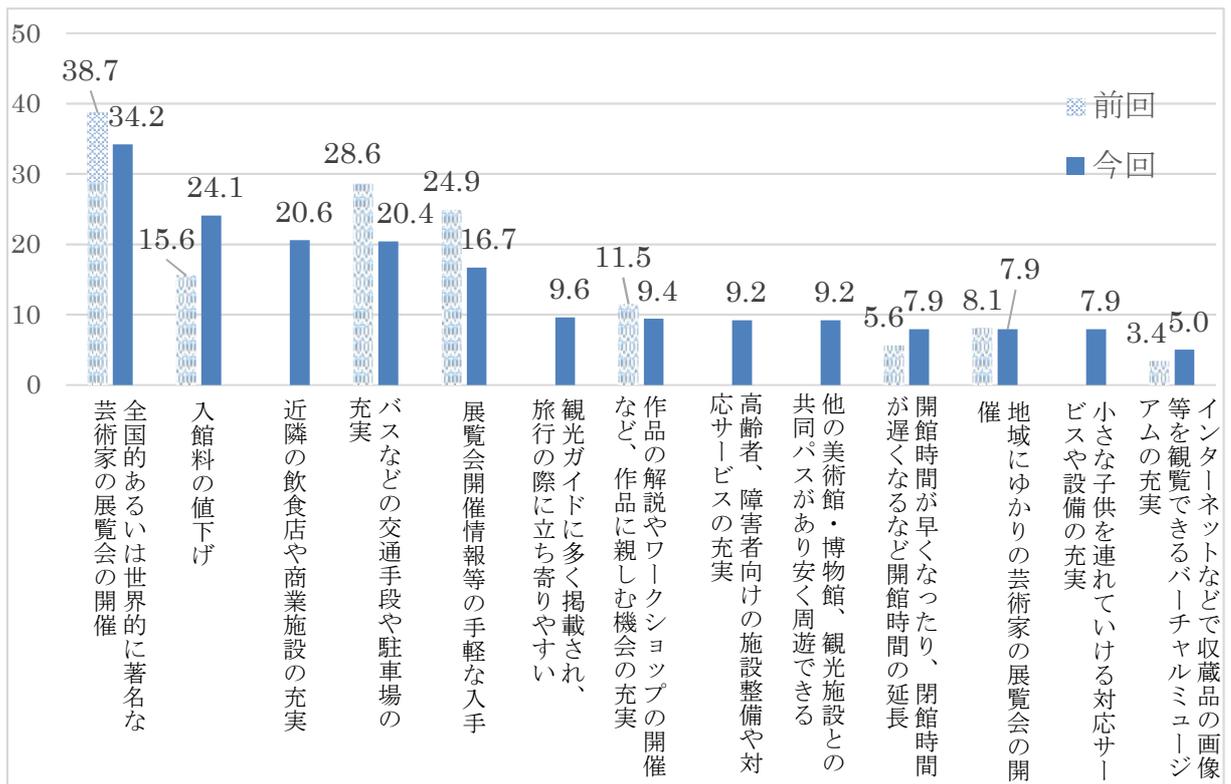
①この1年間における美術館・博物館等での鑑賞状況（問3（1）（2））

- ・ この1年間に県内の美術館・博物館等へ「出かけた」と回答した人の割合は、前回調査と比べて低下。
- ・ この1年間に県外の美術館・博物館等へ「出かけた」と回答した人の割合は、前回調査と比べて約2割減少。



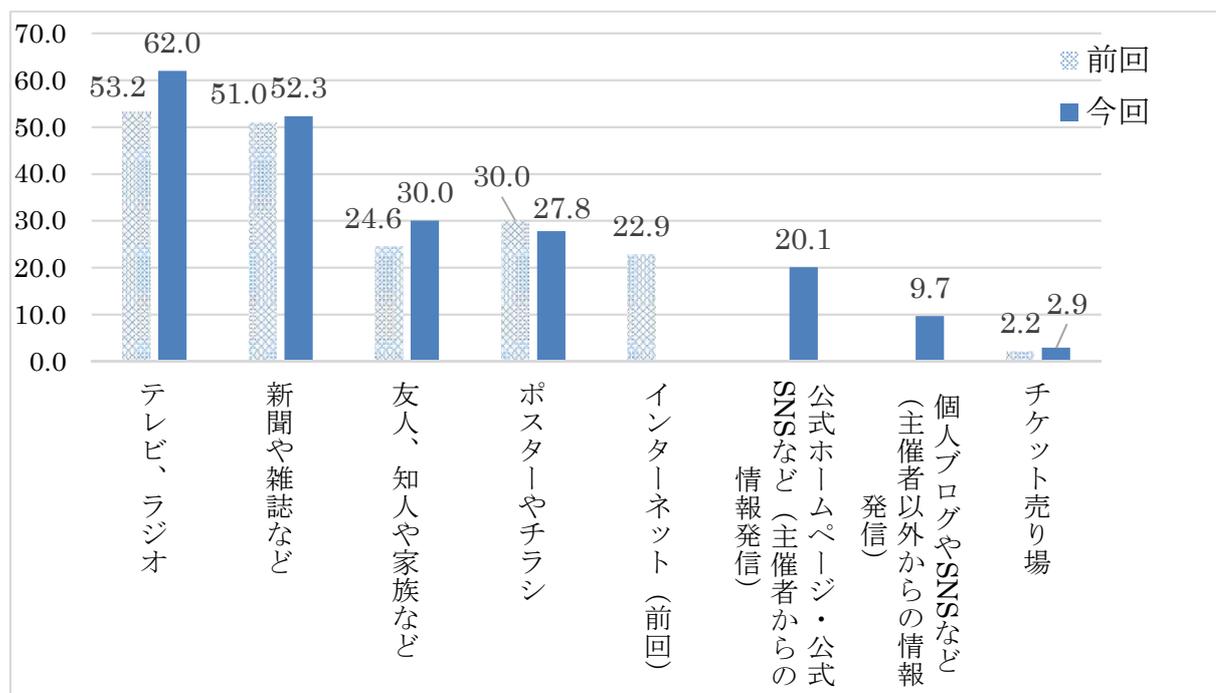
②どうすれば美術館・博物館等にもっと出かけやすくなるか（問3（3））

- ・ 「全国的あるいは世界的に著名な芸術家の展覧会の開催」が最も多く、次いで「入館料の値下げ」「近隣の飲食店や商業施設の充実」、「バスなどの交通手段や駐車場の充実」と続く。
- ・ 前回調査と比較すると、「入館料の値下げ」、「開館時間の延長」、「バーチャルミュージアムの充実」などは上昇。



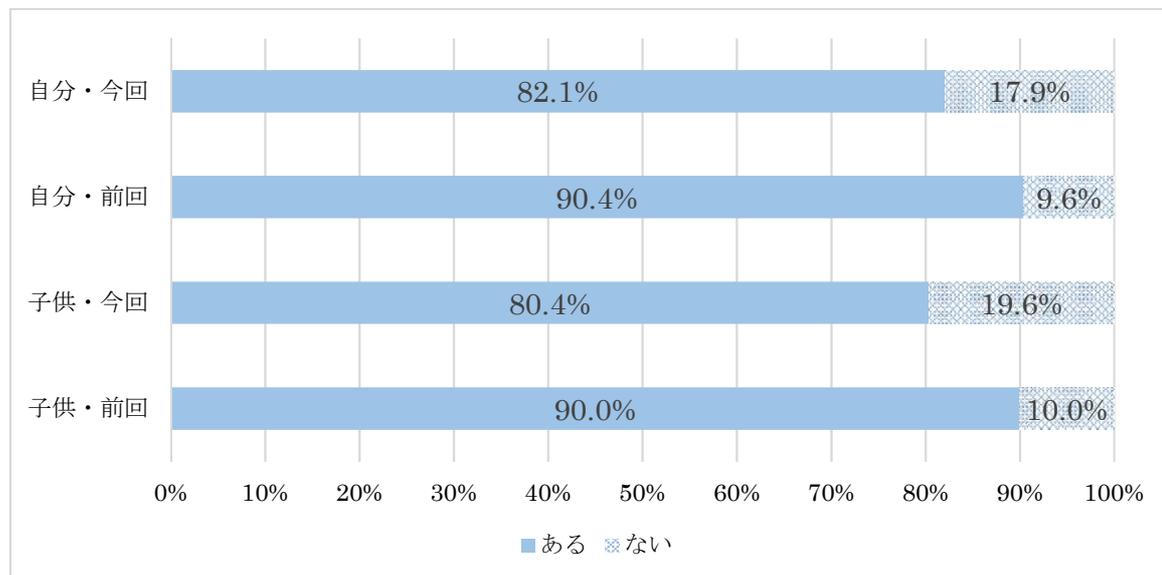
7 文化の鑑賞に関する情報の入手先

- 「テレビ、ラジオ」と「新聞や雑誌など」は、依然として高い割合にあり、前回調査と比較して上昇。
- インターネットからの情報入手については、「公式ホームページや公式 SNS」と「個人ブログや SNS など（主催者以外からの情報発信）」を足し合わせると前回と比較して上昇。



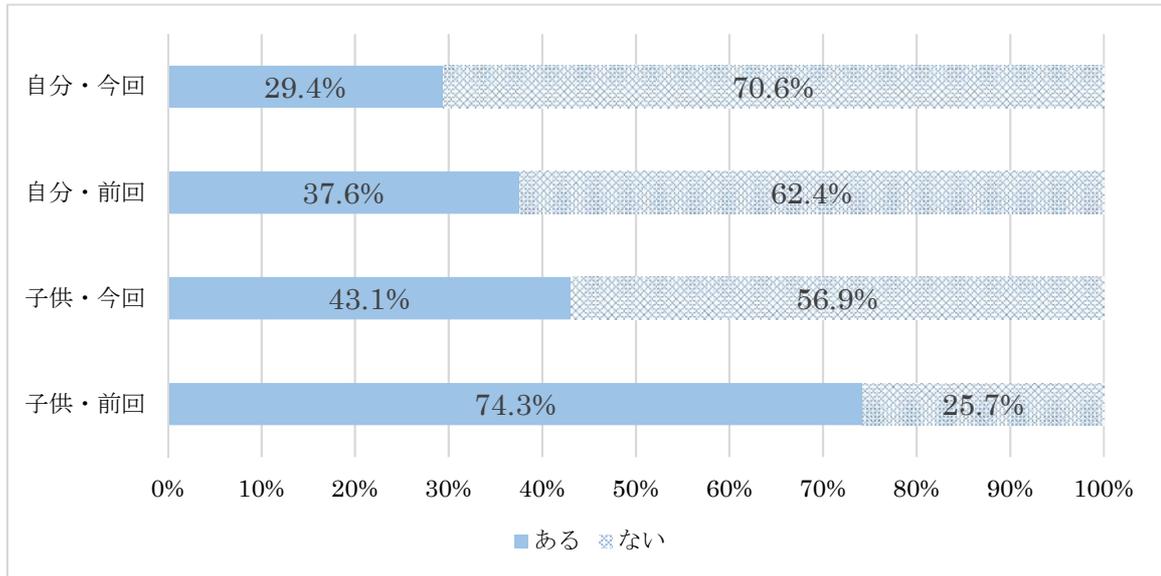
8 今後、もっと自分が鑑賞したい分野や子どもたちに鑑賞させたい分野があるか (問6)

- 「自分」、「子ども」とともに、前回調査からは低下。



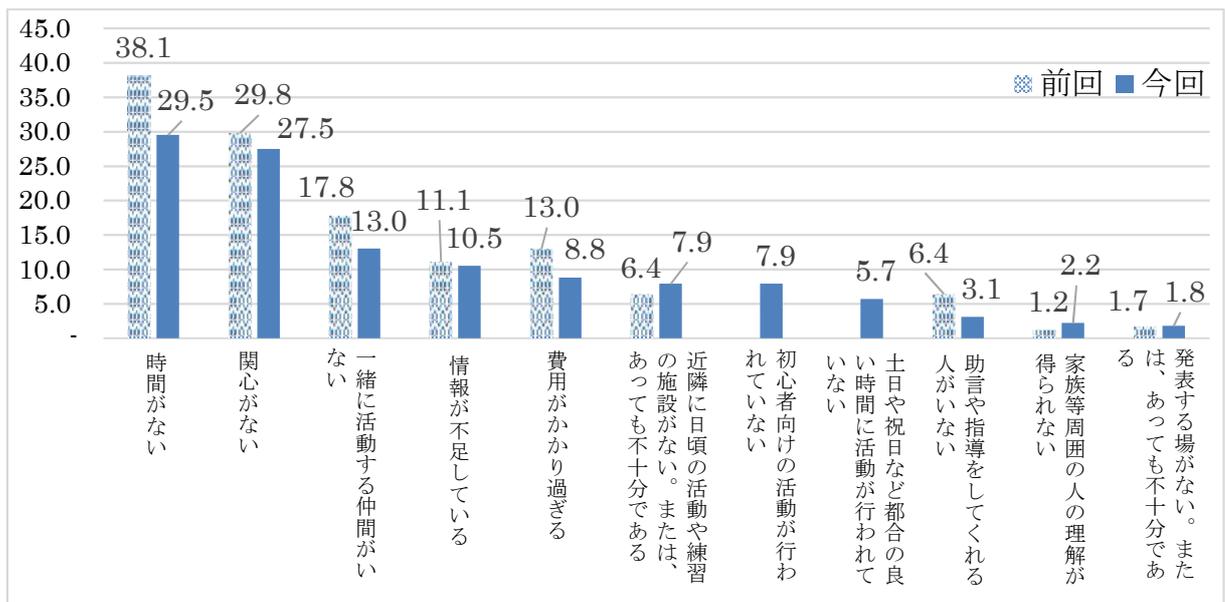
9 今後、自分がしたい文化活動や子どもたちにさせたい文化活動はあるか
(問7 (1) (2))

- ・ 「自分」については30%弱と前回調査から低下。
- ・ 「子ども」については約40%と、前回調査から大幅に低下。



10 文化活動を行ううえでの支障や文化活動を行わない理由 (問8)

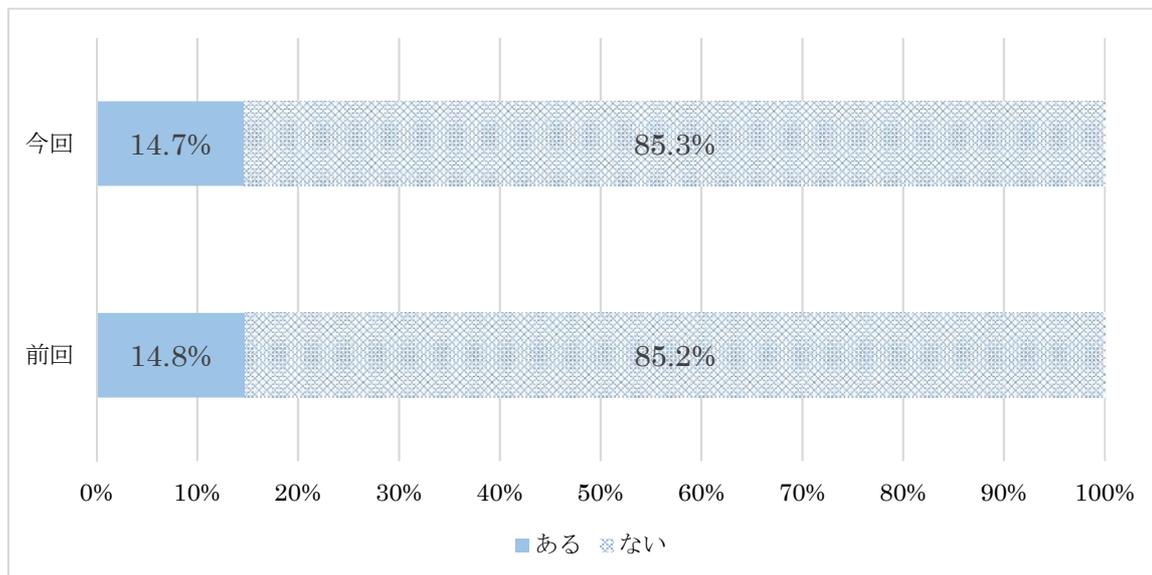
- ・ 「時間がない」が最も多く、次いで「関心がない」、「一緒に活動する仲間がない」となり、これらは前回調査と同様の順。
- ・ 前回調査と比較すると、「近隣に日頃の活動や練習の施設がない。または、あっても不十分である」が上昇。
- ・ 「初心者向けの活動が行われていない」、「土日や祝日など都合の良い時間に活動が行われていない」も今回新たな選択肢であるが、一定程度の割合があった。



1 1 地域の民俗芸能、祭礼行事

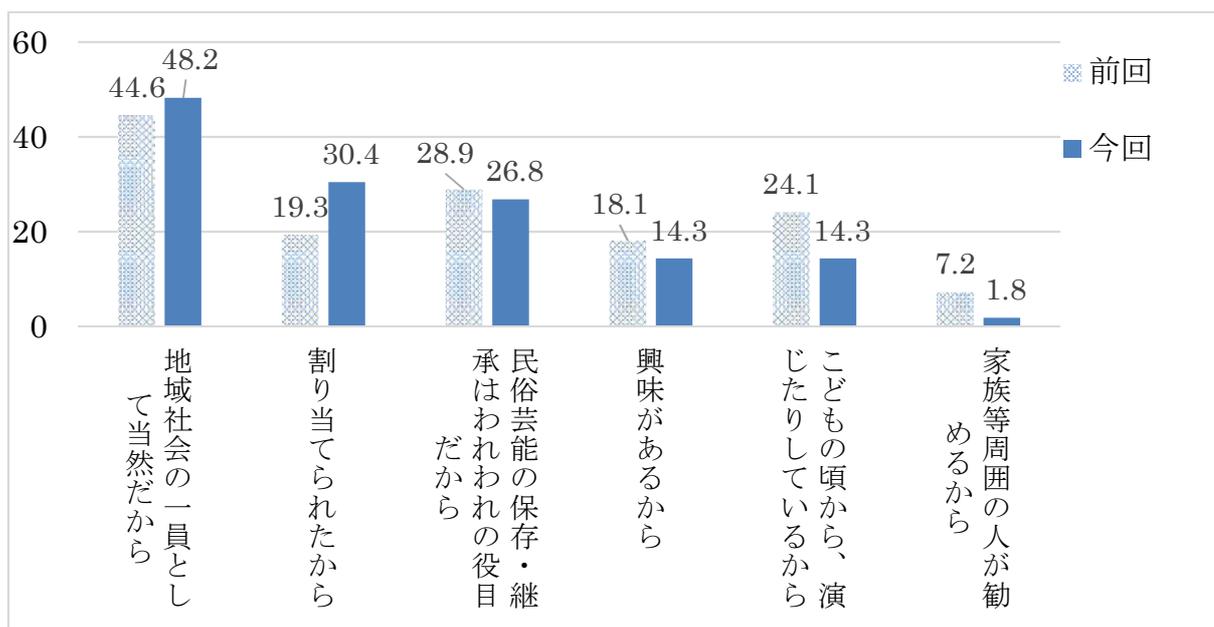
①最近、地域の民俗芸能や祭礼行事を自分で演じたり、参加したことがあるか (問13(1))

- ・ 「ある」と回答した人は、前回調査と同程度となった。



②自分で演じたり、参加したきっかけは何か(問13)

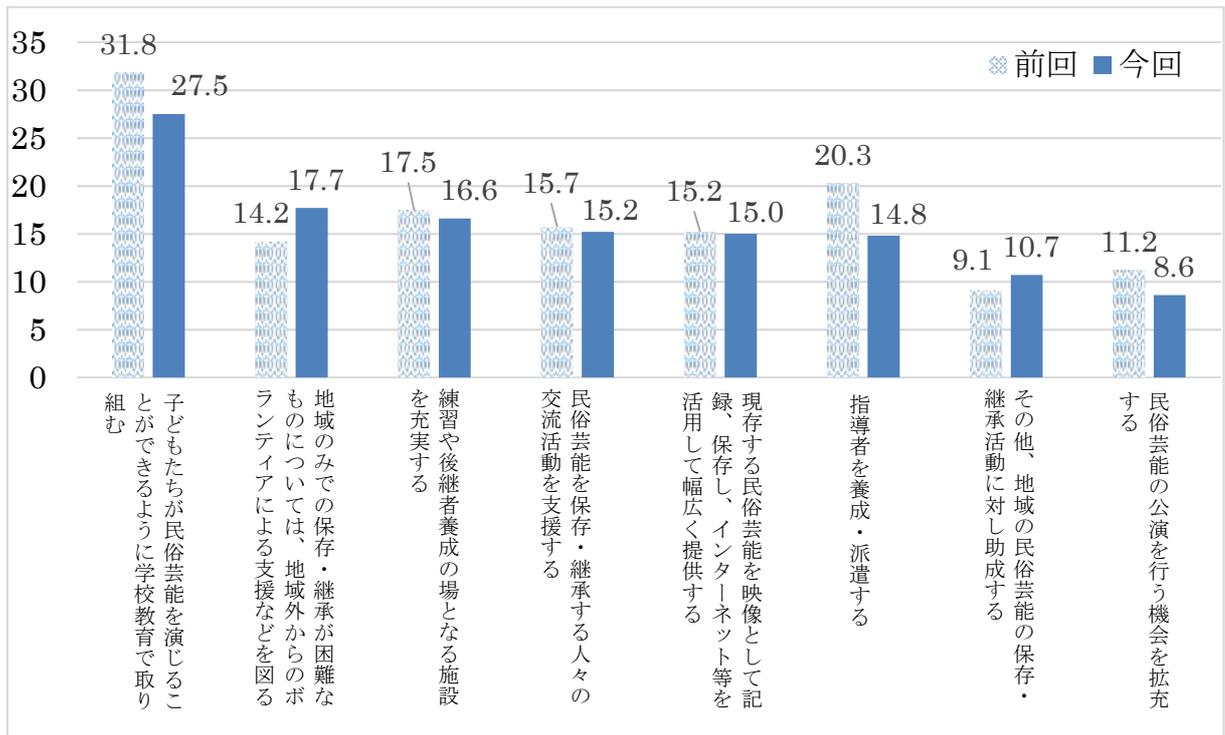
- ・ 「地域社会の一員として当然だから」が最も多く、次いで「割り当てられたから」、「民俗芸能の保存・継承はわれわれの役目だから」となった。
- ・ 前回調査と比較すると、「地域社会の一員として当然だから」「割り当てられたから」は上昇し、「民俗芸能の保存・継承はわれわれの役目だから」「興味があるから」「こどもの頃から演じたりしているから」「家族等周囲の人が進めるから」は低下。



③地域の民俗芸能、祭礼行事の保存・継承に関し県や市町村が力を入れること

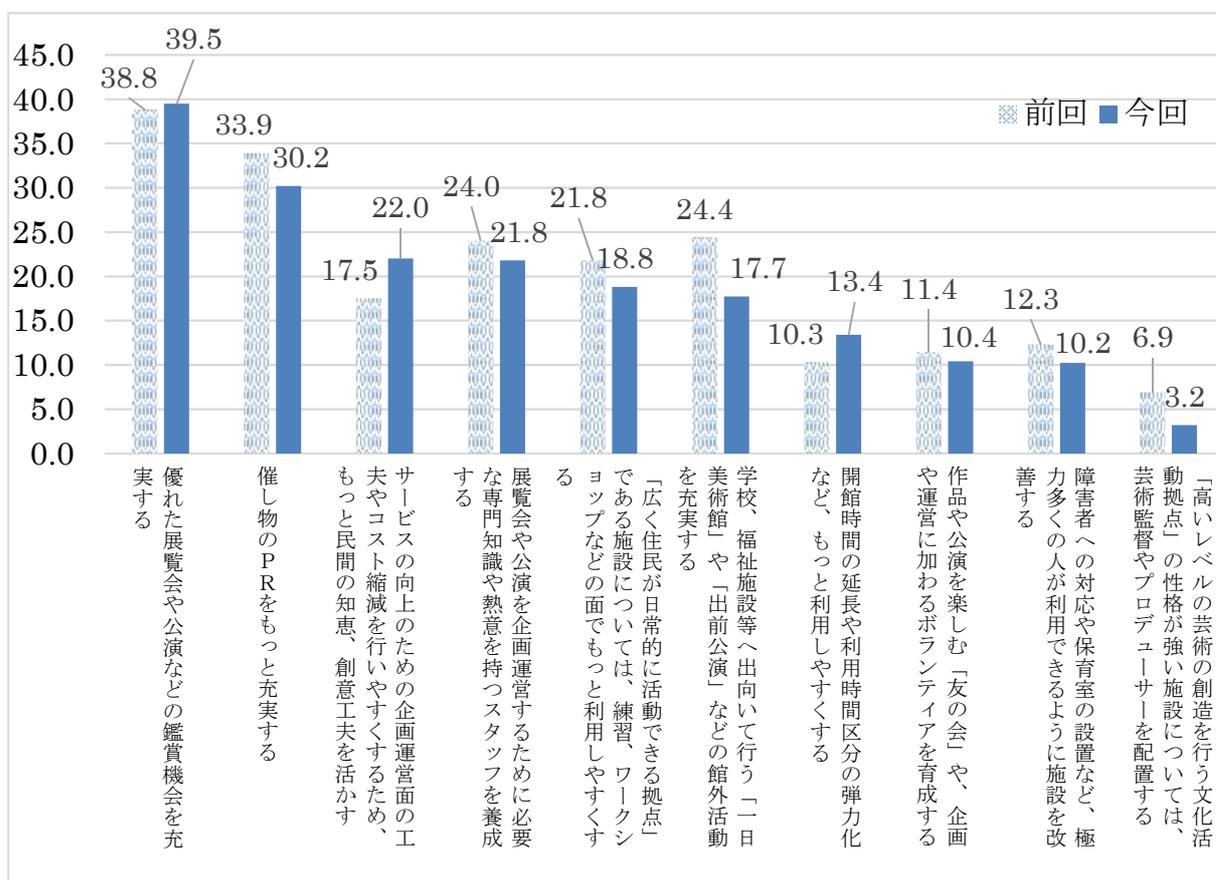
(問14)

- ・「子どもたちが民俗芸能を演じることができるように学校教育で取り組む」が最も多く、次いで「地域のみで保存・継承が困難なものについては、地域外からのボランティアによる支援などを図る」、「練習や後継者養成の場となる施設を充実する」となった。
- ・前回調査と比較すると、「地域のみで保存・継承が困難なものについては、地域外からのボランティアによる支援などを図る」、「その他、地域の民俗芸能の保存・継承活動に対し助成する」の2項目が上昇し、その他の項目は低下。



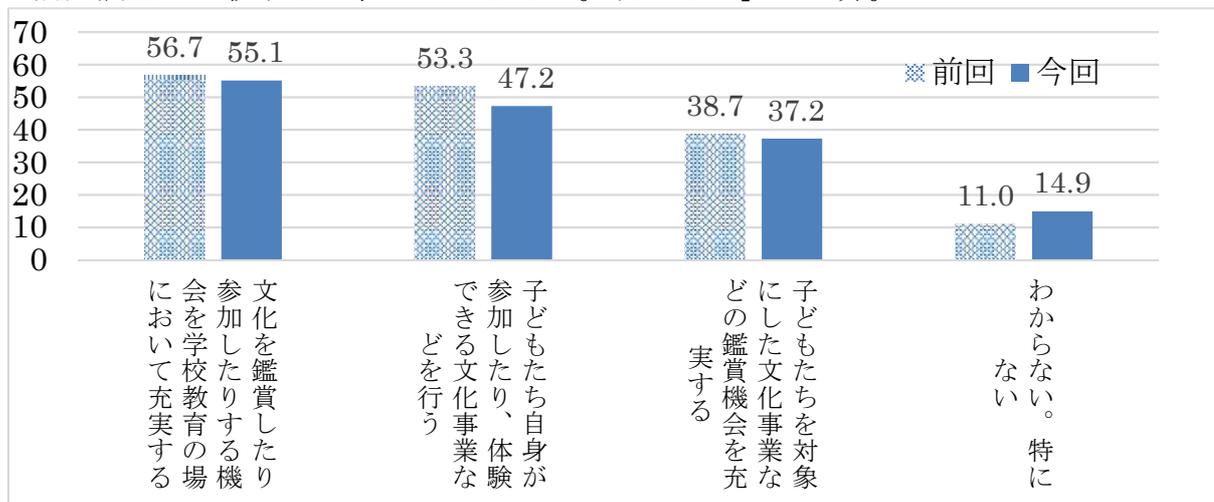
1 2 文化施設が地域の文化活動の拠点となるために県や市町村が力を入れること (問15)

- ・「優れた展覧会や公演などの鑑賞機会を充実する」が最も多く、次いで「催し物のPRをもっと充実する」、「サービスの向上のための企画運営面の工夫やコスト縮減を行いやすくするため、もっと民間の知恵、創意工夫を活かす」、「展覧会や公演を企画するために必要な専門知識や熱意を持つスタッフを養成する」となった。
- ・前回調査と比較すると、「優れた展覧会や公演などの鑑賞機会を充実する」、「サービスの向上のための企画運営面の工夫やコスト縮減を行いやすくするため、もっと民間の知恵、創意工夫を活かす」、「開館時間の延長や利用時間区分の弾力化など、もっと利用しやすくする」が上昇。
- ・一方、「催し物のPRをもっと充実する」、「学校、福祉施設等へ出向いて行う『一日美術館』や『出前公演』などの館外活動を充実する」などは、前回調査と比べて低下。



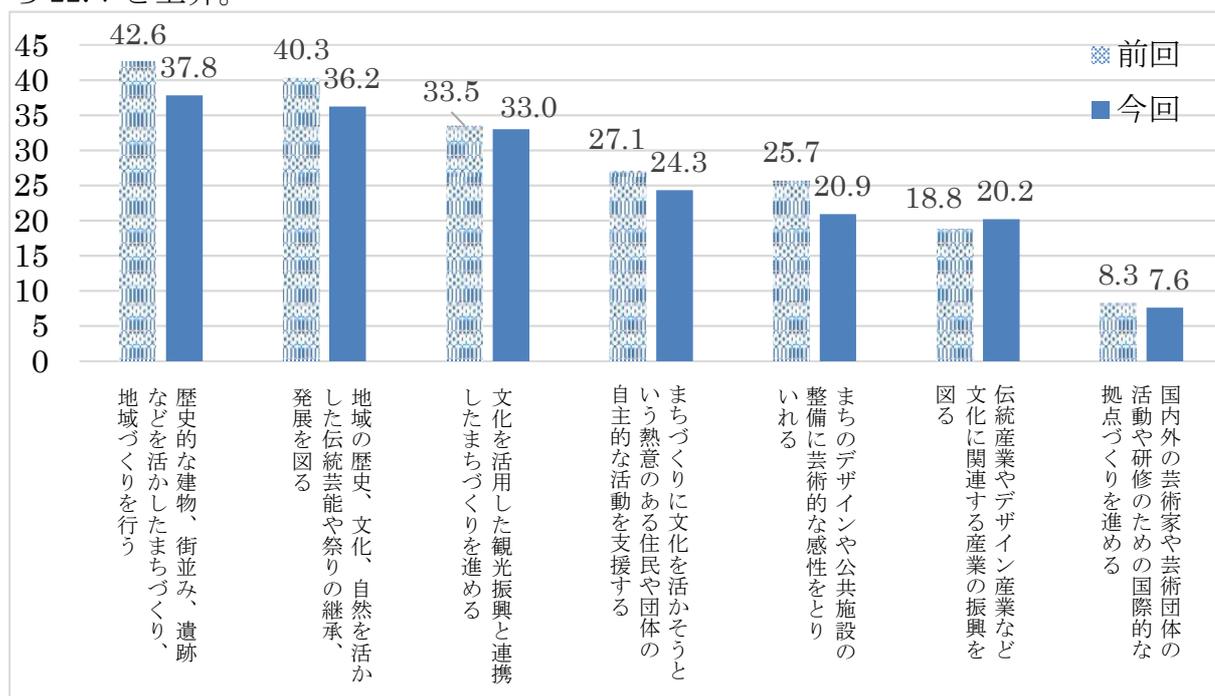
1 3 子どもたちが文化に親しむために県や市町村が力を入れること（問16）

- ・「文化を鑑賞したり参加したりする機会を学校教育の場において充実する」が最も多く、次いで「子どもたち自身が参加したり、体験できる文化事業などを行う」となった。
- ・前回調査と比較すると、「わからない。特にない」は上昇。



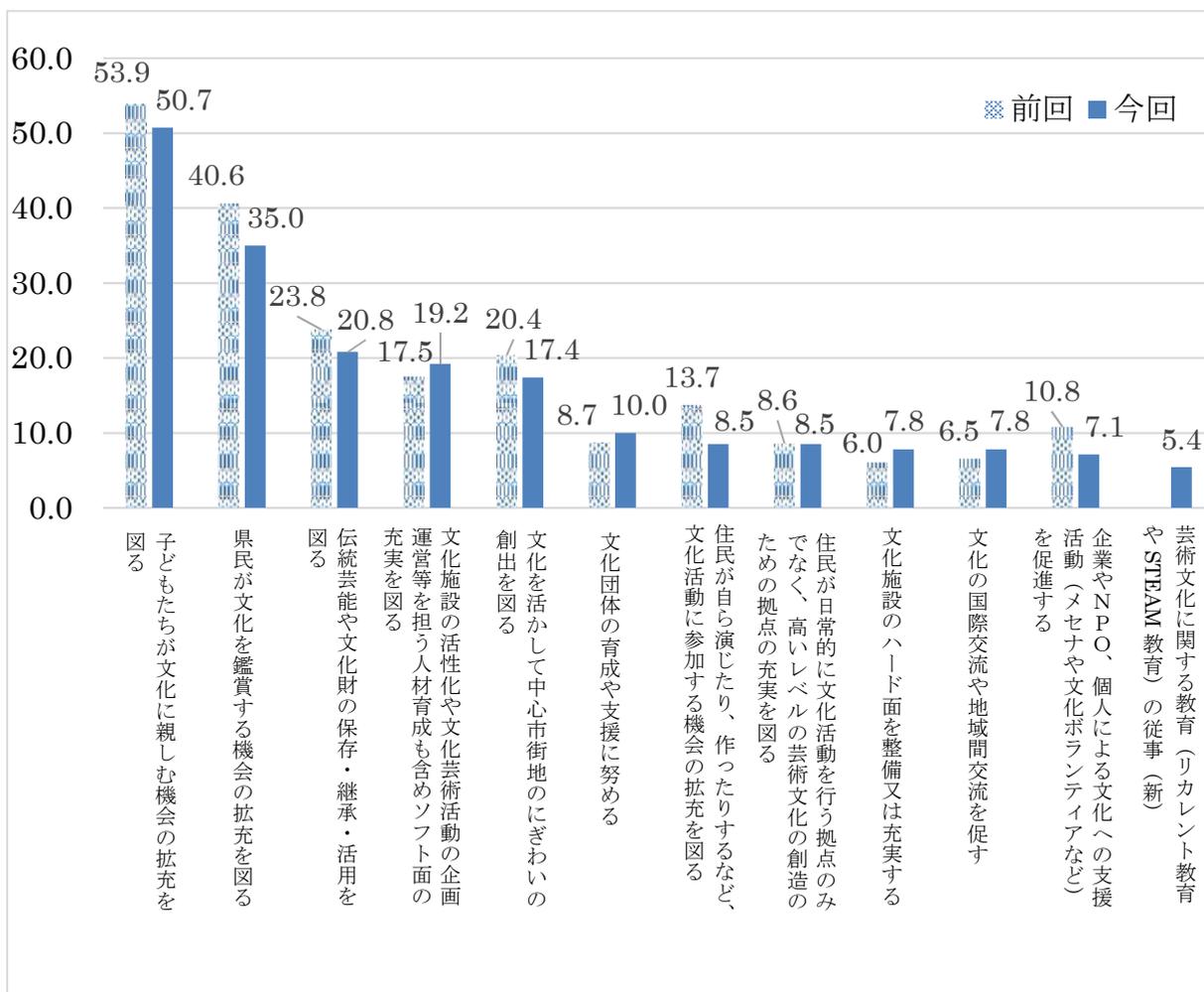
1 4 地域文化を生かし、文化と他分野との連携を強化するために県や市町村が力を入れること（問17）

- ・「歴史的な建物、街並み、遺跡などを活かしたまちづくり、地域づくりを行う」が最も多く、次いで「地域の歴史、文化、自然を活かした伝統芸能や祭りの継承、発展を図る」、「文化を活用した観光振興と連携したまちづくりを進める」、「まちづくりに文化を活かそうという熱意のある住民や団体の自主的な活動を支援する」となった。
- ・前回調査と比較すると、「伝統産業やデザイン産業など文化に関連する産業の振興を図る」を除くすべての項目で低下。「わからない。特にない」が17.1から22.7と上昇。



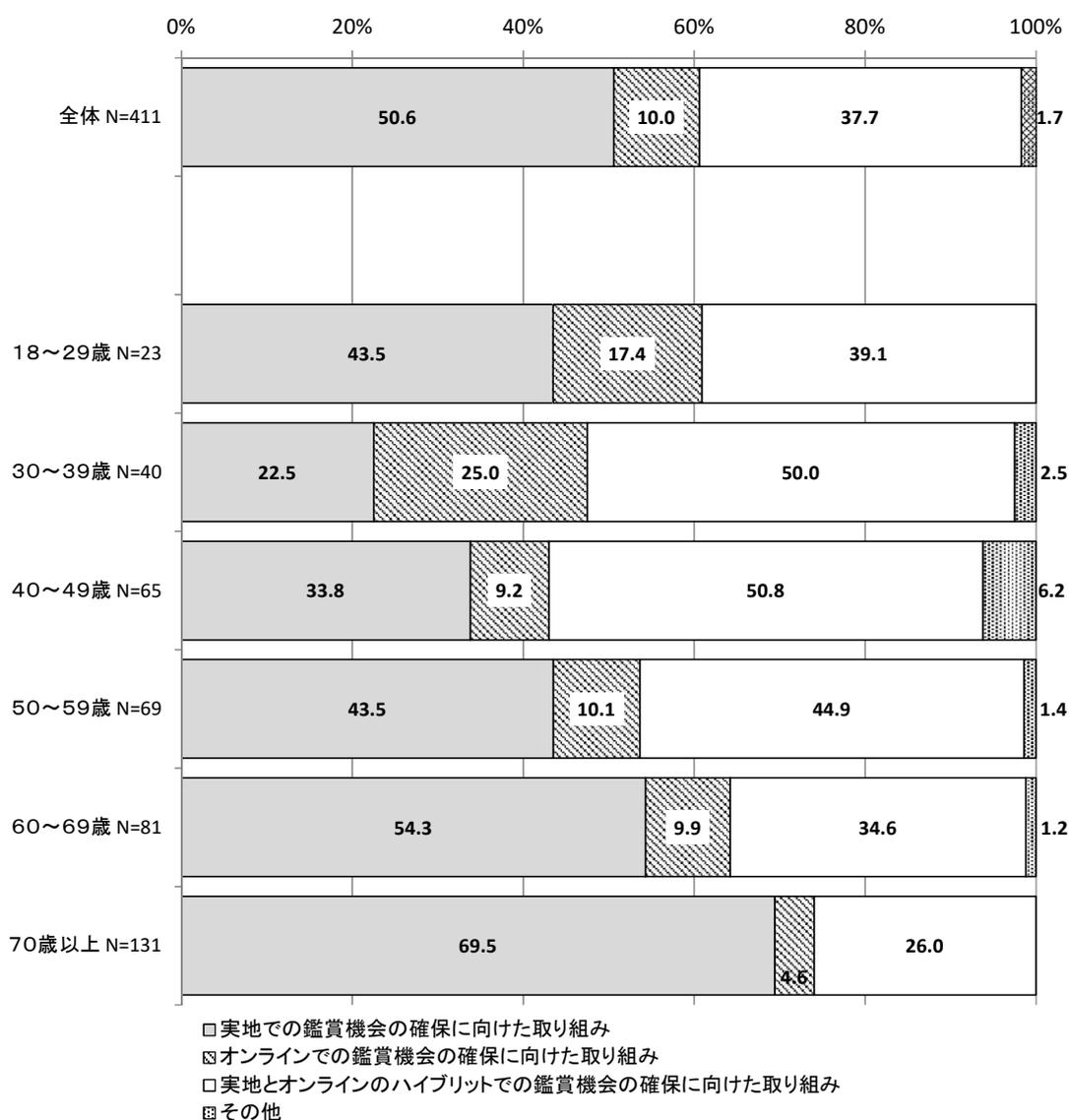
15 文化の振興を通じて「幸せ人口1000万～ウェルビーイング先進地域、富山」を創造するために県や市町村が重点を置くべき施策（問18）

- ・「子どもたちが文化に親しむ機会の拡充を図る」が最も多く、次いで「県民が文化を鑑賞する機会の拡充を図る」、「伝統芸能や文化財の保存・継承・活用を図る」、「文化施設の活性化や文化芸術活動の企画運営等を担う人材養成も含めソフト面の充実を図る」となった。
- ・前回調査と比較すると、「文化施設の活性化や文化芸術活動の企画運営等を担う人材養成も含めソフト面の充実を図る」、「文化団体の育成や支援に努める」、「文化施設のハード面を整備または充実する」「文化の国際交流や地域間交流を促す」が上昇。
- ・一方、「子どもたちが文化に親しむ機会の拡充を図る」、「県民が文化を鑑賞する機会の拡充を図る」、「伝統芸能や文化財の保存・継承・活用を図る」、「文化を活かして中心市街地のにぎわいの創出を図る」、「住民がみずから演じたり、作ったりするなど、文化活動に参加する機会の充実を図る」などは、前回調査と比べて低下。



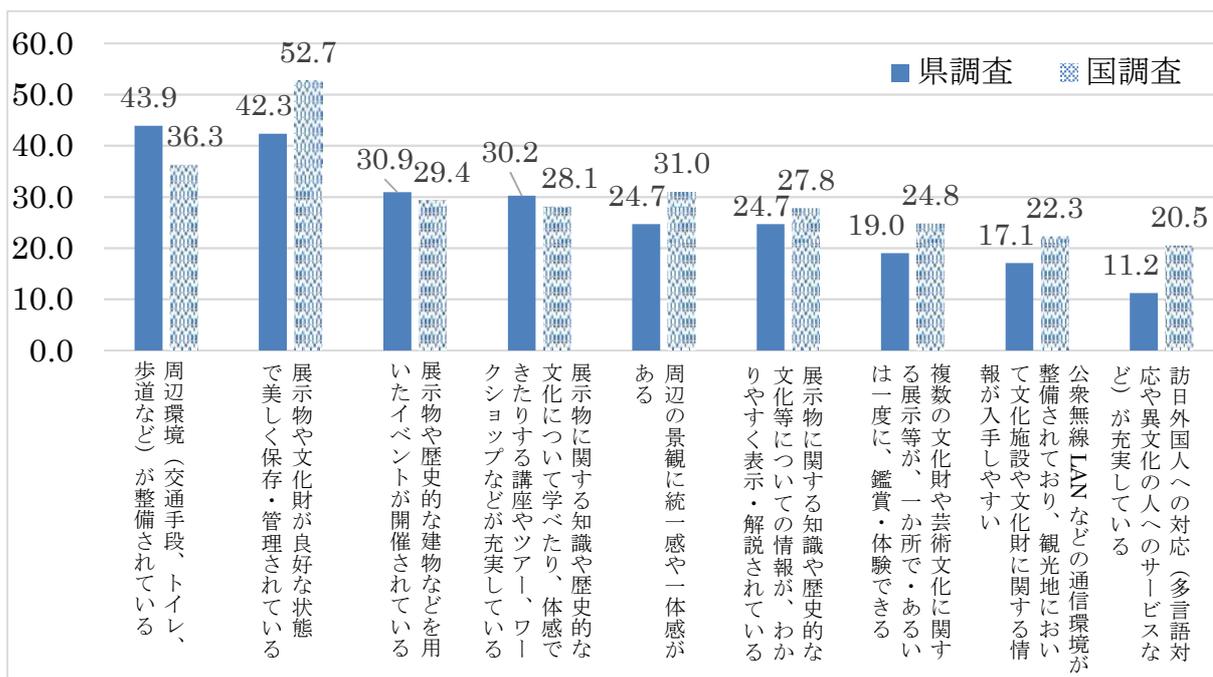
16 ウィズコロナ下、アフターコロナ下における芸術文化団体支援、鑑賞機会の確保について、実施すべき施策（問19）

- ・ 回答全体では「実地での鑑賞機会の確保」が5割を超え、次いで「実地とオンラインのハイブリットでの鑑賞機会の確保」、「オンラインでの鑑賞機会の確保」と続く。
- ・ 年齢別にみると、30代では「オンラインでの鑑賞機会の確保」と「実地とオンラインのハイブリットでの鑑賞機会の確保」をあわせ、オンラインを含む鑑賞機会の確保が7割を超えているが、年代が上がるにつれて割合が下がり、70歳以上では約3割となる。年代による差が大きい。



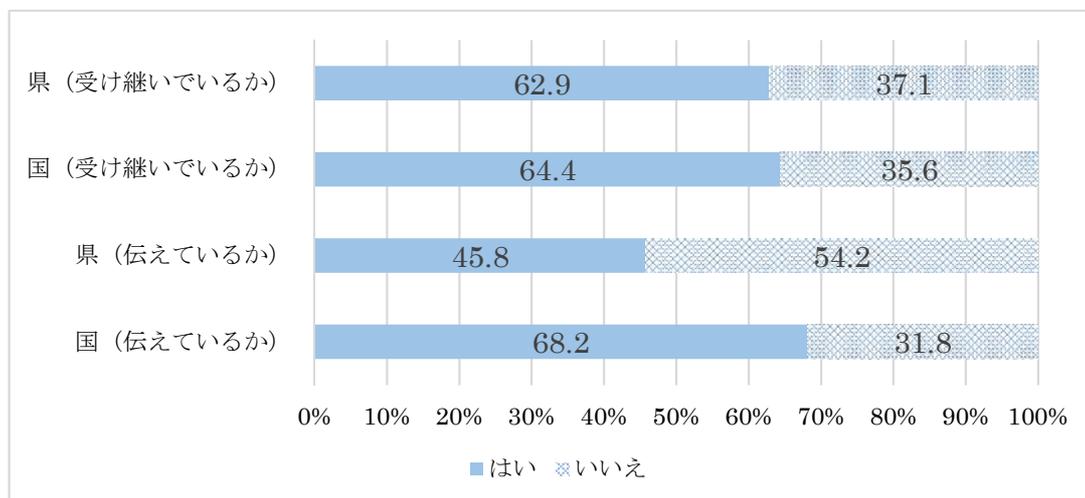
17 文化施設や文化財を観光資源として活用するために重要だと思うこと（問20）

- ・「周辺環境が整備されている」がもっとも高く、次いで「展示物や文化財が良好な状態で保存・管理されている」、「展示物や歴史的な建物などを用いたイベントが開催されている」と続く。
- ・国調査と比較すると「周辺環境が整備されている」、「展示物や歴史的な建物などを用いたイベントが開催されている」、「展示物に関する知識や歴史的な文化について学べたり、体感できたりする講座やツアー、ワークショップなどが充実している」などが高く、「展示物や文化財が良好な状態で保存・管理されている」、「周辺の景観に統一感や一体感がある」などが低い。



18 食文化に関する承継について（問22）

- ・「受け継いでいる」と回答した人が約6割に対し、「伝えている」と回答した人は約5割となっている。
- ・国調査と比較すると、「受け継いでいる」と回答した人の割合はほぼ同数である一方、「伝えている」と回答した人の割合は、国を下回る。



文化活動団体、ボランティア、NPO等に対するアンケート

I 調査対象

対象団体：136団体 回答団体：56団体 回収率：41.2%

【内訳】

<文化活動者>

県域団体（県芸術文化協会加盟団体） 35団体

市町村文化協会（市町村芸術文化団体） 23団体

<文化活動支援者>

NPO法人 32団体

ボランティア（芸術文化関係） 8団体

〃（公文協関係） 12団体

〃（県博協関係） 20団体

各種団体（婦人会等） 6団体

II 調査結果

1 日常的な活動の場所や発表の場所についての要望（回答数32団体）

（多かった意見）

- ・施設使用料の低減や無料化（10）

（その他の意見）

- ・利用できる施設の情報発信の強化
- ・施設までの公共交通の利便性の向上
- ・施設予約の困難さの解消
- ・施設申込み手続きの簡素化
- ・オンラインでの発表が可能な施設の増加
- ・公演に対する支援
- ・公募展の増加

2 文化活動に関する情報の収集・発信方法（現状）（回答数55団体）

（収集）

- ・新聞、テレビ等のマスコミ情報、文化施設や県、市町村発行の広報誌、芸術文化団体発行の会報誌、インターネット（ホームページ、メール、SNS等）、チラシ、ポスター、ダイレクトメール、他団体、口コミ、専門誌 等

（発信）

- ・ポスター、チラシ、芸術文化団体発行の会報誌、県、市町村発行の広報誌、マスコミ、インターネット（ホームページ、メール、SNS等）、他団体、口コミ 等

3 文化活動に関する情報の収集・発信方法（今後の希望）（回答数30団体）

（多かった意見）

- ・インターネット（ホームページ、メール、SNS等）（15）

（その他の意見）

- ・幅広い年齢層向けにインターネットと紙媒体の併用

- ・チラシ
- ・新聞、雑誌等多くの人が見る媒体
- ・定期的な広報誌の発行
- ・県・市町村の文化活動団体のネットワーク
- ・行政による情報発信

4 団体の文化活動の向上に必要なこと (回答数 5 1 団体)

(多かった意見)

- ・会員(若い世代)の増加、後継者・次代の担い手の確保・育成(22)
- ・情報発信の強化(8)
- ・資金援助・予算確保(6)
- ・会員の技術・資質の向上(6)
- ・活動拠点や発表の場の確保(3)
- ・支援者や協力者、ボランティアの増加(3)

(その他の意見)

- ・学校教育での文化活動の充実、学校の理解
- ・ニーズに合ったイベントの開催

5 美術館・博物館や文化ホールなどの文化施設への要望、活性化策

(回答数 3 7 団体)

(多かった意見)

- ・施設利用料の低減や無料化(12)
- ・郷土の作家や地元市民の作品展の開催、地域の文化や歴史の紹介(5)
- ・体験型や集客効果のあるイベントの充実(3)
- ・施設の老朽化対策(3)
- ・特色のある企画を実現するための財源確保(2)

(その他の意見)

- ・誰もが気軽に立ち寄り利用できる雰囲気づくり・工夫
- ・それぞれの地域の特性を活かした文化施設を目指してほしい
- ・各施設の友の会等を活用したネットワークづくり、つながりの強化
- ・県民へのきめ細かい広報
- ・イベント準備の段階から相談に乗ってくれるコーディネーターの設置
- ・公共交通の利便性の向上などアクセス面での改善
- ・市町村での公立美術館の整備
- ・予約手続きの簡略化
- ・予約の取りにくさの改善
- ・幅広い団体の受け入れの促進
- ・足を運びたいと思わせる収蔵品の充実

6 次代の文化の担い手の確保・育成への取組みと障害、一時的に文化活動を離れている方の活動再開への取組みと障害

①取組み (回答数 3 3 団体)

(多かった意見)

- ・学校への出前公演や学校での指導など、学校教育との連携（6）
- ・ワークショップや体験教室など、年少者に関心を持たせる催し（6）
- ・若手、新入会員への積極的な声かけ、勧誘活動（6）
- ・日頃の活動の成果を発表する機会の創出（6）

（その他の意見）

- ・新聞広告や広報誌等での活動紹介、普及
- ・教室や講習会の開催
- ・芸術文化に関する賞への若手の積極的な推薦

②障害（回答数37団体）

（多かった意見）

- ・会員や指導者等の高齢化による後継者不足、指導者不足等（10）
- ・会場費や謝金、交通費など経済的な負担（6）
- ・若手の組織離れなど個を重視する活動意識への変化（4）
- ・文化芸術に興味を持つ若者の減少（4）
- ・新型コロナウイルス感染症の影響による活動の制限（2）

（その他の意見）

- ・若者の数の減少
- ・防犯やセキュリティの関係から学校や学生に簡単にアプローチできないこと
- ・学校や学生の多忙
- ・仕事との両立

③活動再開への取組み（文化活動団体のみ_回答数12団体）

（多かった意見）

- ・子育て世代への活動支援（2）
- ・子育てが一段落した女性をターゲットとした働きかけ（2）

（その他の意見）

- ・公募展の実施
- ・金銭的援助
- ・表現の場の確保
- ・ダイレクトメール等を活用した声かけ
- ・企業の文化活動への理解、協力

④活動再開への障害（文化活動団体のみ_回答数10団体）

（多かった意見）

- ・子育てや介護等により時間の確保が困難（3）
- ・高齢化（2）

（その他の意見）

- ・企業の対応
- ・予算不足
- ・芸術文化活動より生活第一の意識

7 富山の文化が県内外の多くの人に評価、発信されるために必要なこと

(回答数49団体)

(多かった意見)

- ・メディアの活用やホームページ、SNSなどによる情報発信の強化(18)
- ・県民が「富山の文化」に関心を持ち、その良さに気づき、誇りを持つ(3)
- ・発表の場の充実(3)
- ・行政による積極的な情報発信(3)
- ・各団体・サークルの自発的な情報発信(2)
- ・富山固有の文化の保存、収集、発掘、ブラッシュアップ、発信(2)

(その他の意見)

- ・首都圏等での持続的なPR活動
- ・観光資源とドッキングした情報発信を中心に進める
- ・インフルエンサーや知事など知名度のある方に発信者になってもらう
- ・小中学校段階での郷土学習や遠足等での利用など文化の裾野づくり
- ・高齢者に配慮した広報
- ・高齢者がデジタル機器を使いこなせるようになる
- ・多言語化や振り仮名等全ての人が情報にアクセスしやすいような工夫
- ・些細な事でも丹念にしつこくPRする努力
- ・展示の解説をするボランティアを増やす
- ・学生など若者の力による盛り上がりや発信力が必要
- ・県外など多様な人と交流し、意見を取り入れる
- ・地域の伝統芸能の継承などのため世代間交流が大切
- ・行政+活動団体+住民のネットワークの推進
- ・子どもの頃から世界的な芸術作品に触れられる機会の創出

8 国内外に誇ることでできる文化の「宝もの」を自ら評価して、地域づくりに活かすために必要なこと (回答数43団体)

(多かった意見)

- ・外部の視点も活用した地域住民による「宝もの」の再発見・再認識(7)
- ・自ら「宝もの」の価値を認識し、SNSなどを通じ積極的に情報発信する(7)
- ・地道な活動の継続などによる「宝もの」の保存や担い手の育成、継承(6)
- ・活動する個人・団体への支援・協力(4)
- ・伝統行事、地域行事への積極的な参加(3)

(その他の意見)

- ・各世代にわたる郷土学習
- ・県民へ地域の歴史や良さを伝え啓発する場の確保
- ・県ゆかりの作家の展覧会の開催
- ・海外での作品展覧会
- ・コンクールへの積極的な参加
- ・地元の舞台スタッフの育成
- ・長く活動し続けること
- ・「宝もの」ではなく、身近に接し、生活や社会活動の一部とすること
- ・何にでも手を出さず、その地域にしかない文化に集中して予算をつけること

9 そのほか、団体の活動や文化振興についての課題（回答数45団体）

（多かった意見）

- ・会員の確保、後継者の育成（25）
- ・新型コロナの影響により生活様式が変化している中での文化活動のあり方（3）
- ・仕事と生活、文化活動の両立（2）

（その他の意見）

- ・活動をマスコミ等に取り上げてもらう機会が少ない
- ・会員の高齢化により情報発信ツールをうまく活用できない
- ・組織の運営の効率化
- ・活動を発表する機会をどう増やすか
- ・公的補助の少なさ
- ・若い人たちへの芸術文化の伝達手段の乏しさ
- ・ボランティアとして活動できる人が少ない
- ・色々な行事・イベントを同日にやっているため広域的な日程調整が必要

10 コロナ禍の課題（回答数32団体）

（多かった意見）

- ・活動資金の不足（7）
- ・活動頻度の減少、来館者数の減少（5）
- ・外出自粛などコロナ禍で変わった県民の行動・意識への対処（4）
- ・各団体の活動の周知、情報発信（3）
- ・後継者の育成（2）
- ・安心安全な会場の確保（2）
- ・コロナ対策をどこまで徹底するか（2）
- ・コロナで中止となった行事の代替・補填策（2）

（その他の意見）

- ・モチベーションの低下
- ・活動を推進しようとする団体・個人の調整及び行政とのネットワーク

11 コロナ禍の支援策（回答数34団体）

（多かった意見）

- ・施設使用料の減免、活動への助成金の交付など金銭的支援（8）
- ・活動を情報発信するホームページ、SNS等の作成（6）
- ・ワクチン接種の促進、検査の無料化などコロナ対策の強化（4）
- ・動画配信等による発表機会の提供（2）
- ・インバウンドなど旅行者の受け入れの推進（2）

（その他の意見）

- ・支援相談窓口の設置
- ・県と団体との連携強化
- ・文化施設など公立施設に行きやすく使いやすくなる取組みがほしい

文化行政施策に対する市町村アンケート

対象市町村 15市町村

回答市町村 15市町村

調査年月 令和4年8月

<主な回答>

1 市町村における文化施設の課題

- ・施設の老朽化への対応（修繕・維持補修、新たな施設の整備等）（11）
- ・稼働率の向上や利用者数・利用収入の増加に向けた対策（6）
- ・バリアフリー化に対応した施設整備
- ・指定管理者のノウハウの蓄積
- ・地域における文化を継承・持続発展させていくための次世代を担う人材の育成
- ・人材育成のための普及活動に取り組む人材の不足
- ・地域の団体や県民との新たな関係の構築
- ・施設が郊外にあり車以外での来場が不可能
- ・施設が少なく、文化芸術活動の発表の場所が限られている
- ・大きな施設がなく、大規模な展示や公演を行うことが不可能

2 地域文化活動の拠点としての文化施設の今後のあり方

- ・成果発表、人材育成、創造活動等を行う芸術文化の活動拠点（9）
- ・住民の自主的・自発的な文化活動の場としての機能強化（4）
- ・アウトリーチ活動による文化に触れる体験機会の提供（2）
- ・文化活動だけでなく交流施設として老若男女が集える施設づくり
- ・産業や観光など様々な分野との連携

3-1 地域の文化振興施策を総合的、効果的に進めるための市町村の役割

- ・芸術文化団体への支援や発表の場の提供（6）
- ・多様な芸術文化に触れる機会の提供（2）
- ・県民や民間団体、文化の担い手等の自主的・自発的な文化活動のサポート（2）
- ・子どもたちの文化活動に取り組む機会の充実（2）
- ・地域の人材や団体の育成

3-2 県に期待する役割

- ・市町村に対する支援や助言（8）
- ・専門的知識を有する人材の確保や派遣（4）
- ・大規模で質の高い文化事業の実施や文化団体等が実施する事業への助成（3）
- ・地域の文化活動の県内外や海外への発信（2）
- ・市町村間など広域的な連携の推進（2）

4 次代の豊かな文化を築く担い手として子どもを育成するために必要なこと

- ・質の高い芸術文化に触れ、体験する機会の提供・拡充（14）
- ・ふるさと教育の充実や、郷土愛への意識向上（3）

- ・指導者の育成（３）
- ・学校教育と連携した文化活動の推進（２）
- ・文化について学ぶことができる環境や場所の提供

5 富山の文化が県内外の多くの人に評価、発信されるために必要なこと

- ・SNSやメディア、著名人などを通じた情報発信（７）
- ・富山の文化の魅力を発掘・再認識し、積極的かつ効果的に発信（５）
- ・県内外や海外での伝統芸能の公演や紹介の充実（２）
- ・県民や団体の交流や連携の促進による地域全体の魅力や発信力の向上
- ・外国人向けの発信
- ・県HPでの発信の強化
- ・他県との連携した発信による相乗効果
- ・県内での特徴的な美術展・文化展の開催

6 地域にある文化の「宝もの」を評価し、地域づくりに生かし発信するために必要なこと

- ・県民による再認識・再評価、ブラッシュアップ（９）
- ・県民の主体的活動の促進、それに対する支援（４）
- ・SNSやメディアなどを活用した情報発信（２）
- ・地域における活動の中心となる人材の掘り起こし・育成（２）
- ・県外・海外の方による「宝もの」の評価・発見
- ・文化的ポテンシャルを活かした取組みと戦略的な情報発信によるブランド形成
- ・専門的な知識や経験を持ったリーダーシップを取れる人材

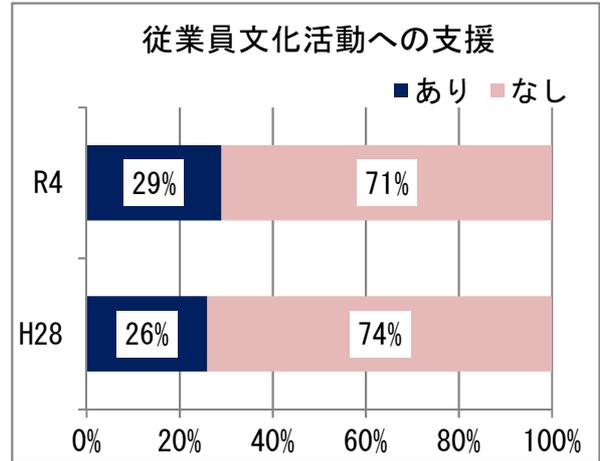
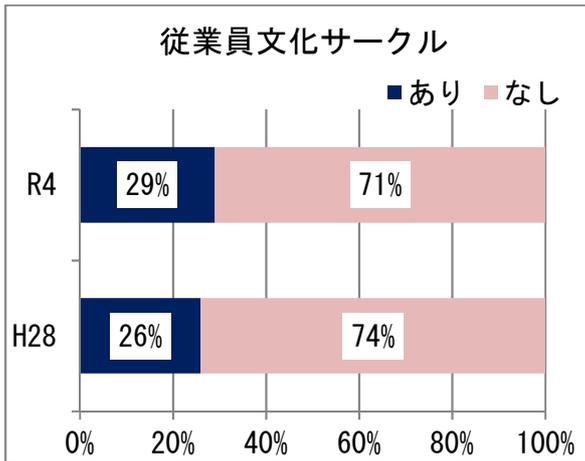
7 ウィズコロナ・アフターコロナを見据え、文化創造活動の向上を図るために必要なこと

- ・コロナ禍にあっても従来の芸術文化活動を継続して実施できるための支援（７）
- ・オンライン配信やバーチャル展示室などといった新たな発表の機会の提供やそれを行う団体等への支援（６）
- ・コロナ禍で新たに誕生した様々な文化や文化活動に対する支援
- ・コロナ対策をしつつ、安心して活動ができるようコロナ関連の情報の発信

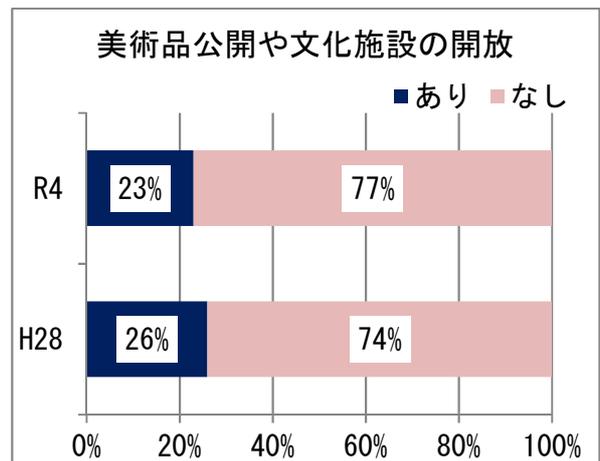
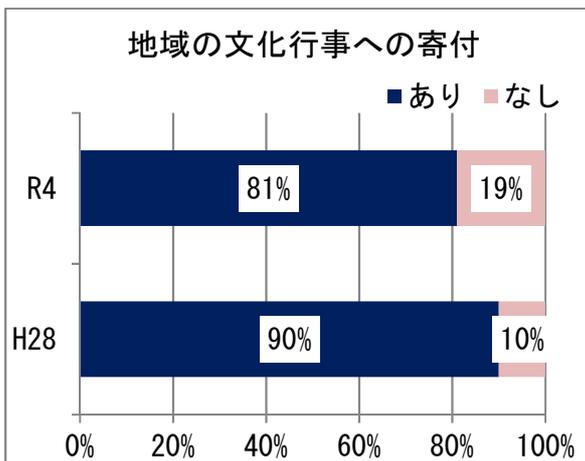
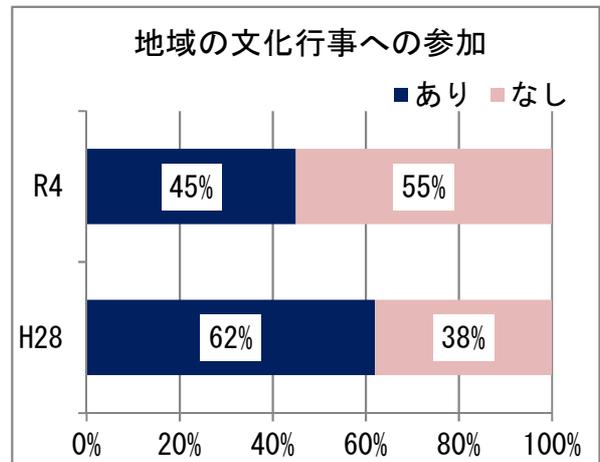
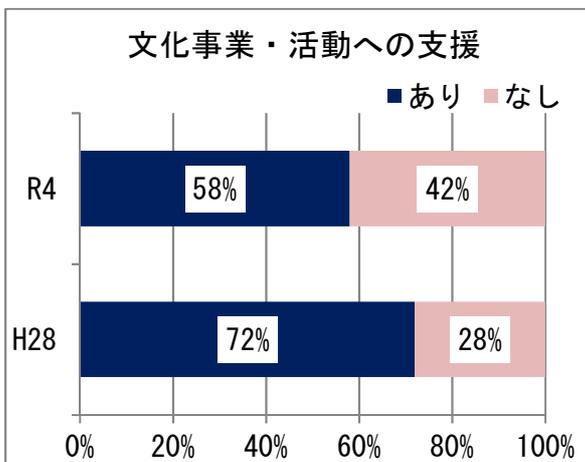
企業による文化支援等に関するアンケート

対象企業 106社
 回答企業 31社（回収率：29.3%）
 調査年月 令和4年8月

1 社内（事業所内）における文化活動



2 文化行事、文化活動への支援



3-1 文化事業や文化活動を支援した理由（回答数20社）

（多かった意見）

- ・地域・地域の活性化への貢献や、地域・地元との共生（12）
- ・芸術文化の振興（5）

（その他の意見）

- ・会社のPRや認知度・イメージの向上（2）
- ・取引先等からの依頼など人的つながり（2）
- ・会社の理念・事業に関連する（2）
- ・持続可能社会の実現に向けた取り組みの一環
- ・社員の福利厚生

3-2 文化活動の支援を行ううえでの課題（回答数8社）

（多かった意見）

- ・妥当性、公平性（3）

（その他の意見）

- ・予算の捻出など資金面での課題
- ・広告協賛のメリット
- ・業務との関連性
- ・近隣住民の理解
- ・会社のポリシーにより、支援可能な事業に制限がある
- ・人的資源は割けないため、金銭的な援助にとどまる

3-3 コロナを経ての変化（回答数13社）

（多かった意見）

- ・行事の中止や延期、規模の縮小及び支援の中止・減少（10）
- ・人的資源の提供の制約、社員の参加自粛（2）
- ・特に変化なし（2）

（その他の意見）

- ・支援内容の精査・見直し

4-1 文化活動の支援を行うための条件（回答数15社）

（多かった意見）

- ・対象の行事・活動と企業の理念・事業との関係性（3）
- ・地域性、公共性（2）
- ・主催者の信頼性、公的機関の支援（2）

（その他の意見）

- ・支援金の適正な使用の確認
- ・ビジョンや目的の明確性
- ・情報交換の機会やコミュニケーション
- ・近隣住民の理解
- ・株主や地域への有益性
- ・支援が必要な団体の情報提供
- ・行事内容の早期告知

- ・新型コロナウイルス感染症の終息

4-2 今後も支援したいと思うか（回答数19社）

（多かった意見）

- ・できる限り支援したい。継続して支援したい（13）
- ・個々の事業ごとに都度検討し、必要があれば支援する（4）

（その他の意見）

- ・環境、状況次第
- ・県の支援・協調があれば検討

4-3 どのような支援が可能か（回答数15社）

（多かった意見）

- ・寄付など資金的支援（9）
- ・ボランティア派遣や従業員の参加など人的支援（5）

（その他の意見）

- ・物品の提供、貸出（3）
- ・協賛広告・PR活動等（3）
- ・従業員への周知（2）

5 県の文化振興施策への意見や要望（回答数5社）

- ・新規事業は不要、既存の事業も取捨選択していくべき
- ・県民のためになる地に足のついた施策を行ってほしい
- ・ウェルビーイングに資する取り組みを継続的に行ってほしい
- ・企業が担うべき役割を具体的に示してほしい
- ・高等学校における「地域の文化」に対する指導・教育の拡充
- ・伝統芸能の保存への注力
- ・自社所有の美術品を有効活用し、貢献していきたい